

あの日を繰り返さないために

鏡が丘特別支援学校三年 廣咲 輝龍

私は戦争のことはあまりよくわかりませんが、学校に毎年来てくれて平和の大切さを教えてくれる人達の話の聞いたり写真を見たりして色々な事を思いました。

最初に写真を見たときはあまりにも残酷で、空から鉄の雨が降り、逃げ惑う人々をその写真から想像することが出来ました。

私は、今年の五月国語の時間に平和学習をしました。最初に米軍が戦争をしかけてきたとずっと思っていました。しかし、日本軍が真珠湾「今のハワイ」に爆弾を落としました。死者もたくさん出たと聞いて、おどろきました。私はそこで領土を広げようとした日本軍が戦争を仕掛けたので、そのことを聞いたときにやられたらやりかえすというふうになっってしまったのだと思いました。今度はアメリカ軍が日本に攻めてきて、長崎と広島に爆弾が投下されてしまいました。戦争とは終わりのない残酷な戦いなのです。復讐が復讐を生み、恨み、憎しみ、妬みなどというささいなことから戦争という大きな悲劇になってしまうのです。世の中が平和であるためには、皆が互いを尊敬し合っていくことが私は大切だと思います。言ってみれば戦争は国と国との喧嘩が大きくなって戦争という悲惨なものを生み出したのです。人間の他人を思いやる気持ちや認め合い、尊敬すること、そういう誰でも簡単にできそうなこと、いや、誰でも簡単に出来ることなんです。

しかし、出来なかつた過去があります。それが戦争となってしまうのです。自分の国ことを考えて相手の国のことを顧みない、そういうことが国と国との争いとなり、戦争という大きな悲劇を生むことになるのです。国が違えば文化も違い言葉も違います。相手のことを知り、理解し合わなければ溝が生まれてしまうのです。お互いを認め合う心こそが大事なのです。

私はふだん車いすで生活しています。自分をふり返ると、ふだん支えてくれる家族や友人や先生などに対して支えてくれることがあたりまえと思ってしまうことがあります。そしてやってくれることが当たり前前に感じている私は逆にやってくれないことに対していきどおりを覚えます。周りの人とぶつかり合うことが多々あります。そういう小さな争いが大きな戦争という人を傷つけ合うことになってしまうとふと考えました。普段から相手の立場に立つこと、相手のことを認めることこそが、戦争を未然に防ぐことが出来る道なのです。今の平和があるのは、人を認め合うことが出来ているからなのかと私は思います。逆に言ってみれば、人を認め合うことが今現在出来なければ、戦争はいつでも、そしてこれからも起きてしまうのです。

この戦争という悲惨な出来事に目を向けて私達は、戦争を二度と起こさないように戦争を知り、未来を生きる人達へ伝えていくことが必要です。もう二度と戦争という悲惨な出来事を起こすことがないように。